

肝臓病学に関する基礎研究から臨床研究に至る幅広い領域の最新の成果が発表される。発表演題数は 1000 題以上であり、C 型肝炎だけでなく各肝炎ウイルス感染症、また非ウイルス性の肝疾患に関する研究成果が報告される。

17-19 年度における HCV 研究の大きなトピックスは、培養細胞系を用いた感染増殖機構解析の進展であった。感染/侵入過程に重要な宿主因子として claudin-1 が、ゲノム複製を調節する宿主因子として VAP-A/B、cyclophilin B、FKBP8 などが同定され、また粒子形成に重要なウイルス構造蛋白及び非構造蛋白領域が解明された。

また、抗ウイルス薬の開発研究においては、HCV ポリメラーゼ、プロテアーゼに対する選択的な阻害剤が国内外の製薬会社から見出され、臨床実験が展開された。いくつかの開発化合物については治験成績がオープンになったが、副作用の問題が解消できず必ずしも順調に進んでいないという印象を持った。

各シンポジウムでは、多くの第一線のウイルス学者、肝臓病学者と各研究成果の意義、今後の課題などについて討論を行った。HCV の生活環、病原性発現機構に関する研究、また治療薬開発の基盤的研究に関して特に活発な意見交換を行った。感染増殖過程の分子機構について新たに見出された知見のなかには、治療薬開発のための新しい分子標的となりうるものも含まれており、我が国の C 型肝炎対策研究事業を推進、発展させていくために有用な情報を数多く得ることができた。

#### 結論

肝炎ウイルス研究に関する最先端の成果が発表され討論される国際シンポジウムに参加し、感染研における研究成果を発表するとともに、肝炎ウイルス研究に関する最先端の情報を収集した。